

第5. 6学年 音楽科「音楽の旅」

「A表現(歌唱・器楽) B鑑賞」

体験や教科横断的な学びを通して、音楽に豊かに関わる力を育てる
原瀬小学校 山崎 純子

I 題材構成の工夫

「音楽の旅」という題材名のもと、国内で特色が顕著である沖縄、富山、北海道の音楽を取り上げ、その土地に育まれた音楽のよさを感じ得ていく。特に、北海道ではアイヌ民族の音楽を取り上げ、総合的な学習の時間で「原瀬の太々神楽」の継承者として芸能を学んだ体験や社会科の調べ学習と関連を図るとともに、授業において教師による演示や映像を通しての体験を通して生活に密着したアイヌ民族の音楽を多面的・多角的に味わうことができるようにする。アイヌ民族の音楽は、踊りという点で神楽と、倍音の音楽という点でモンゴルのホーミーと共通点があり、かつ独特の特徴をもっていることから、日本でありながら異文化の特徴をもっている。この倍音からモンゴルの倍音に視野を広げ、世界を旅する設定とし、世界に伝わる多様な音楽に親しむことができるように題材を構成した。これにより、国内や世界の音楽の旅を通して、音楽文化の背景にある人々の生活や思いを多面的に知り、生活の中にある多様な音楽の特徴やよさ、面白さを感じ取ったり、音楽と生活とのかかわりに気づいたりすることをねらいとした。

児童の実態

本学級の児童は、5年生10名 6年生5名計15名の複式学級である。日本の音楽については、両学年とも、3年生の時から「わらべうた」を通して他者と関わる力を育みながら「拍感」「リズム」「音の高低」「問いと答え」「繰り返し」等の音楽の要素を学んできた。さらに6年生は、日本の5音階や和太鼓による「音楽づくり」を通して自発的・創造的な活動をするなど、日本の音楽を通した学びを積み重ねてきている。また、原瀬小学校は20年近く、地域に伝わる民俗芸能「原瀬の太々神楽」の伝承活動を行っており、両学年とも5年生の時に保存会の方の手から手へと学び演じており、民俗芸能への興味関心が高い。

題材を通して育成したい子どもの姿

教師の演示による体験や映像による体験と教科横断的な取り組みを通して、日本や世界の生活の中にある多様な音楽の特徴やおもしろさ・よさに気づき、豊かに関わろうとする姿

「題材構成の工夫」における ○成果と●課題

- 沖縄から北上する「音楽の旅」という設定によって、児童にとって必然性のある学びとなった。
- 特色が顕著である民謡、民族音楽を、「本物から学ぶ」ことをコンセプトに、伝承者による歌や演奏、踊り等の映像や、教師の歌や実演を通して体験しながら学ぶことで、それぞれの音楽のよさや特徴を体感できた。
- 教科横断的な取り組みをすることで、音楽文化の背景にある人々の生活や思いを多面的に知ることができ、より深い学びにつなげることができた。
- 教科書で取り扱われている共通教材「子もり歌」を位置づけることができなかつたので、別に題材を設定するなど改善策が必要である。

学習計画（総時数 7 時間）

時	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力	関連教科
1	見通す	沖縄民謡を聴き、歌い方や旋律の特徴、伴奏に使われている楽器の音色やリズムの特徴を感じ取りながら歌う。	沖縄民謡の曲想と、旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解している。(知)	【社会科】「あたたかい土地のくらし」 【総合的な学習】「原瀬の太々神楽を舞おう」 【社会科】「寒い土地のくらし」 【家庭科】「小物を作ろう」
2	考える 対話する	楽譜を使わず「こきりこ」の実際の映像を見ながら歌を聴き、声の出し方や節まわしなどの特徴について感じ取ったことを図や記号に表し、気づいたことを出し合う。	我が国の音楽の旋律や音色、拍などを聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏のよさを見いだして聴いている。(主・思)	
3	習得する	「こきりこ」の演奏の映像を見ながら、演奏に使われている実際の楽器と踊りを体験する。	日本の民謡の特徴を意識しながら、「こきりこ節」を演ずることができる。(技)	
4	振り返り 生かす	「追分節様式」(無拍のリズム)と「八木節様式」(有拍のリズム)の民謡を聴き、「こきりこ」と類似点や相違点を出し合い、それぞれのよさを味わう。	「こきりこ」の学習で学んだ日本の民謡の特徴を意識しながら聴くとともに、声の出し方やかけ声、囃し言葉などの違いや共通点を意識して聴いている。(思)	
5	考える 対話する	アイヌ民族の歌と踊りを、実際の映像を通して体験しながら、その背景にある生活やものの考え方のわりを知り、アイヌの音楽文化の特徴を味わう。	我が国に伝わる音楽の特徴や人々のくらしとの関わりについて興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。(主・思)	
6	振り返り 生かす	世界の特徴的な音楽(ホーミー・ケチャ)を映像や教師の声を見聴きしながら部分的に体験し、声や歌い方・楽器の音色や音の重なり方の特徴などの類似点や違いなどに気づけて鑑賞する。	諸外国に伝わる音楽の特徴や、それらの音楽と人々のくらしとの関わりについて興味をもち、それぞれの演奏のよさを見出して聴くことができる。(主・思)	
7				

II コーディネートの工夫

<本時のねらい>

アイヌの歌や踊りの特徴に気づき、表現や鑑賞を通して「アイヌの音楽文化」に親しむことができる。

課題設定	<p>学習活動・内容 (T主な発問C児童の反応)</p> <p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師が歌うアイヌの座り歌(ウポボ)「イカムツカーサンケーイ」を聴き、思ったこと気づいたことを発表し合う。 C: 日本語ではないみたい。 C: いつもと声の出し方が違う。 C: 拍に合っている。</p> <p>「学ぶ=まねぶ」をしながら、アイヌの人々の音楽の特徴を見つけよう。</p>
	<p>2 アイヌの歌と踊りの特徴を知り、歌や踊りを体験する。 (1) 映像に合わせ、動きまねながら「イカムツカーサンケーイ」を歌い、これまで歌った西洋のカノンとウポボを歌った時との違いを話し合う。 T: 気づいたことはありますか？ C: 同じ言葉を繰り返している。 C: 2つに分かれている。カノンになっている。 T: ヨーロッパのカノンと比べて違いはあるかな？ C: 声の出し方が違う。歌声がゆれている。 C: 何かを叩いていて、それに合わせて歌っている。 (2) アイヌの人々の考え方やくらしを紹介する映像を視聴する。 (3) アイヌ古式舞踊「パッタキリムセ」を見て踊り、「原瀬の太々神楽の巫女舞」と比べ、その特徴を味わう。 T: どんな生き物の動きを表しているのでしょうか？ C: かがんで大きく手を振っている。 T: バッタです。やってみましょう。 T: 巫女舞の足の動きと比べてみましょう。 C: 巫女舞はすり足で歩いている。足音がない。 T: 足を踏みならすのは悪霊を踏みしめる意味がわかります。 3 アイヌ古式舞踊(リムセ)を鑑賞する。 (1) 北海道阿寒のアイヌの人々が歌い踊る「サロルリムセ」(鶴の舞)を視聴し、感想を発表し合う。 T: どんなことに気がきましたか？ C: 声の出し方が、鶴の鳴き声みたい。 C: 手の動きが、つばさの動きを表している。 C: 歌や動きを繰り返している。</p>
課題解決	<p>4 本時のまとめと次時の学習への見通しをもつ。 (1) アイヌの音楽の特徴を発表し、本時のまとめをする。</p> <p>歌声が独特で、歌がカノンになっていたり、自然の動きを踊りにしたりして、自然への思いを、歌や踊りで表している。</p> <p>(2) アイヌの民族楽器「ムックリ」(口琴)の音色を聴き、次時への興味をもつ。</p>

<p><コーディネートの実際></p> <p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師が歌うアイヌの座り歌(ウポボ)を聴き覚え歌い、アイヌの人々の音楽であることを知る。 T: 今日の旅先はどこでしょう？(写真を提示) C: マリモだ。北海道だ。</p> <p>湖やマリモの写真ではすぐに北海道と連想できず、アイヌの音楽ということにつながるやりとりに時間を要した。</p> <p>2 アイヌの歌と踊りの特徴を体験を通して知る。 (1) 映像を見て動きまねながら「イカムツカーサンケーイ」を歌い、西洋のカノンとの違いを話し合う。 T: 気づいたことはありますか？ C: 音楽が追いかけている。拍を打っていた。 T: 映像を見て丸ごとまねをして歌いましょう。 T: ヨーロッパのカノンと歌い比べてみましょう。 (2) アイヌ古式舞踊についてタブレットで調べ、アイヌの人々の考え方やくらしを紹介する映像を視聴する。 タブレット検索と映像視聴後、さらに教師が説明したため時間を要した。</p> <p>(3) アイヌ古式舞踊「パッタキリムセ」を見て踊り、「原瀬の太々神楽の巫女舞」と比べ、その特徴を味わう。 T: どんな生き物の動きを表しているのでしょうか？ C: にわとりかな。 C: つるだと思う。 T: バッタです。やってみましょう。 T: 6年生の巫女舞の足の動きと比べてみましょう。 C: 巫女舞はゆっくり小さく歩いている。足音がない。 T: 足を踏みならすのは、悪霊を踏みしめる意味があります。</p> <p>3 アイヌ古式舞踊(リムセ)を鑑賞する。 (1) 北海道阿寒のアイヌの人々が歌い踊る「サロルリムセ」(鶴の舞)を視聴し、感想を発表し合う。 C: ツルの動きや鳴き声を表していた。 C: 踊りながら回っていた。</p> <p>4 本時のまとめと次時の学習への見通しをもつ。 T: めあての「アイヌの人々の音楽の特徴」は見つかりましたか？</p> <p>生き物などの動きをまねて、自然やカムイへの祈りを歌や踊りで表している。</p>	
<p>十分な時間がとれず、1問1答となってしまった。</p>	
<p>「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題</p> <p>○ アイヌ民族の歌や踊りを、映像や教師の実演を通して見て聴いて、まねをして歌い踊り、体験することができた。さらに、アイヌ民族の考え方や、衣食住、歌や踊りの意味を映像や教師の語りを通して知り、「原瀬の太々神楽」と比較することで、アイヌ民族の音楽文化の特徴に気付くことができた。</p> <p>● 活動内容を精選することによって鑑賞後の話し合いの時間を十分確保し、体験や鑑賞を通しての気づきを交流し合い、特徴や感想を納得しながら共有することで、より深い学びにつなげていくことができたと思われる。</p>	

<p><コーディネートの改善></p> <p>1 本時のめあてをつかむ。 (1) 教師が歌うアイヌの座り歌(ウポボ)を聴き覚え歌い、アイヌの人々の音楽であることを知る。 T: 今日の旅先はどこでしょう？(マタンブシを提示)</p> <p>社会科「北海道の文化」の調べ学習と関連づけマタンブシ(アイヌ文様刺繍の鉢巻)を示し「アイヌ」だと気づかせ、めあてにつなげる。</p> <p>マタンブシ</p> <p>2 アイヌの歌と踊りの特徴を体験を通して知る。 (1) 映像を見て動きまねながら「イカムツカーサンケーイ」を歌い西洋のカノンとの違いを話し合う。</p> <p>映像の視聴は社会科・総合的な学習の時間に行い、本時は児童がタブレットで調べたことを取り上げることで主体的な学びを促し、自然を表現したパッタキウポボにつなげる。</p> <p>(2) タブレットでアイヌの音楽文化の特徴を調べる。 C: カムイや祖先に対して敬意や感謝の気持ちを表している。 C: 動物と人間の世界が深く関係し、動物の動きや声をまねした表現が多い。 (3) アイヌ古式舞踊「パッタキリムセ」を見て踊り、「原瀬の太々神楽」の巫女舞と比べ、その特徴を味わう。</p> <p>3 アイヌ古式舞踊(リムセ)を鑑賞する。 (1) 北海道阿寒のアイヌの人々が歌い踊る「サロルリムセ」(鶴の舞)を視聴し、感想を発表し合う。 T: どのところにアイヌの音楽の特徴がありましたか？ C: ツルの動きだった。 C: ツルの鳴き声のような声を出していた。 T: なるほど。皆さんは、どう思いますか？似ている意見や違う気づき、今日の体験と合わせて考えたことなどありますか？ C: ○○さんの意見に付け加えて着物でツルの羽ばたきを表してながら回っていた。 C: パッタキリムセのように生き物の動きを表していた。</p> <p>気づいたことについての1問1答とならないよう、十分時間をかけて教師からの問い返しを意図的にを行い、自然への思いが歌や踊りに表れているというまとめに結びつけていく。</p>	
---	--